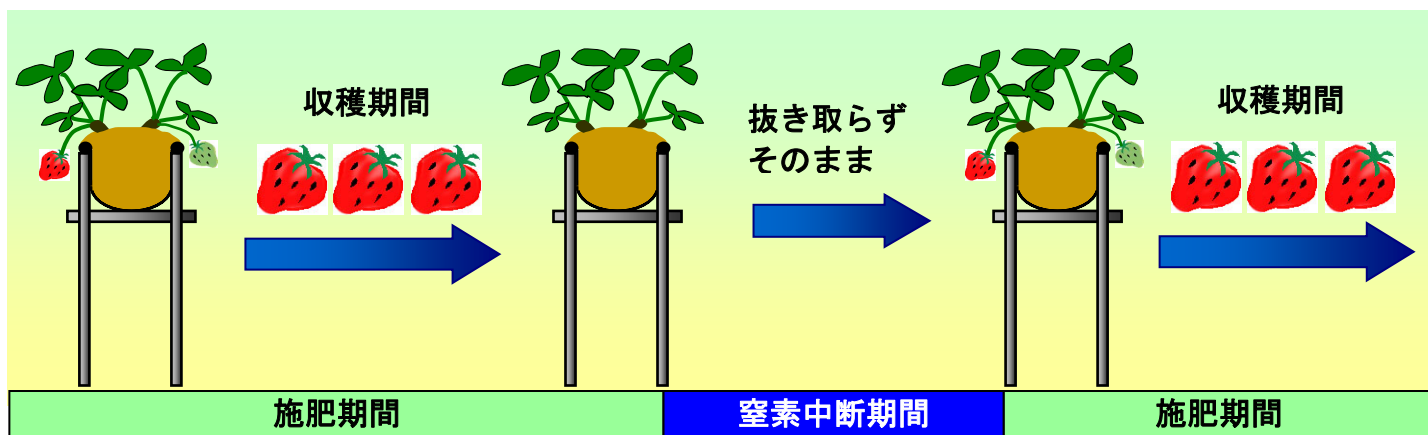


イチゴ「株据置栽培」

窒素中断とランナー除去の効果

イチゴの高設栽培において、生産株を多年利用する「株据置栽培」の開発を行っています。本技術は、これまでの育苗作業を省略でき、イチゴ栽培の省力化（300時間/10a）を可能とします。

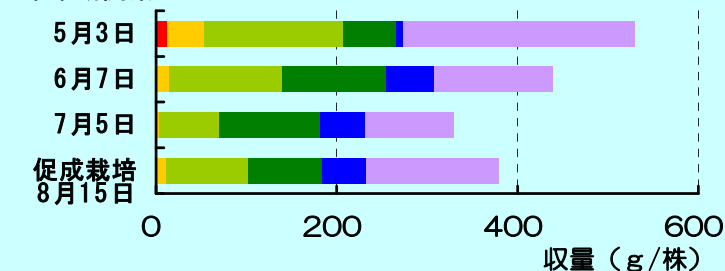


技術のポイント①

5月上旬～6月上旬に窒素中断を開始する。（花芽分化を確認したら、施肥を再開）

窒素中断の開始時期が早いほど収量は高い！！

窒素中断開始



月別規格品収量（1月1日～4月30日）

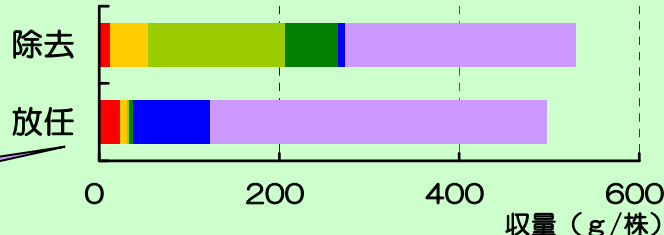
■11月 ■12月 ■1月 ■2月 ■3月 ■4月

技術のポイント②

窒素中断期間は、古葉とランナーを適宜除去する。放任すると、収穫の中休みがひどくなる。

1～2月の2か月間、ほとんど収穫できない！！

ランナーの処理



ランナー除去と放任の月別規格品収量
（1月1日～4月30日）

■11月 ■12月 ■1月 ■2月 ■3月 ■4月

本技術により…

- ① 早期に花芽分化でき、11月からの収穫が可能となる。
- ② 窒素中断期間の作業時間は、慣行栽培の約3分の1となる。
※慣行栽培では、株の抜き取り・育苗管理・定植作業が必要です。